

横浜市郊外住宅地における地域資源の発掘と発信に関する実践的取組

A Project of Extraction and Expression of Local Resources in Residential Suburb of Yokohama

○上野正也*1, 山家京子*2, 松本安生*3

UENO Masaya, YAMAGA Kyoko, MATSUMOTO Yasuo

Recently residential suburbs have faced issues such as declining population and shortage of community leaders. For the sustainability of residential suburbs, it is important that not only promotion of move-in, but current residents have intention to settle. We carried out a project to extract and express local resources through multiple approaches which aims to foster attachment to the local area. As a result of the questionnaire survey, it was found that having multiple places of attachment was one of the factors that increase the intention of settlement. Therefore, the project to foster attachment to the community has possibility to contribute to the sustainability of residential suburbs.

キーワード：まちづくり, 郊外住宅地, 地域資源, 愛着, 持続可能性

Keywords: Town Planning, Residential Suburb, Local Resources, Community Attachment, Sustainability

1. はじめに

近年、郊外住宅地は、少子高齢化に伴う人口減少や地域コミュニティの担い手不足など、様々な課題を有する。そのような状況においては、他地域からの転入促進を図るだけでなく、地域への愛着を育む取組を通じて、定住意識の醸成を図ることが重要だと考えられる。

横浜市は、環境未来都市の取組の一環として郊外住宅地において「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」を推進している。ここでは、鉄道事業者や開発事業者などの民間の力を活用するとともに、大学等と連携し、持続可能な郊外住宅地の再生が目指されている。そして、横浜市と神奈川大学は「十日市場駅勢圏域におけるまちづくりの推進に係る協定」を2017年2月に締結した。

これに基づき筆者らは、地域への愛着を育む活動として、十日市場町、霧が丘、若葉台の3地区にて地域資源の発掘と発信に関する取組を行うとともに、住民意識に関するアンケート調査を実施した^①。

地域資源と地域への愛着に関する先行研究は、崔ら^②

による施設評価と地域への愛着の関係に関する研究や、鈴木ら^③による移動による風土接触量と地域への愛着に関する研究がある。しかし、郊外住宅地の持続可能性から地域資源及び地域への愛着を論じた研究は多くない。

そこで本稿は、持続可能な郊外住宅地の実現に向けて実施した、地域資源の発掘と発信に関する実践的取組について報告するとともに、得られた傾向より地域への愛着を育む取組の可能性について検討することを目的とする。

なお、ここでいう地域資源は、まず歴史的名勝や公園など客観的または公的に認識されるものが挙げられる。一方、本取組みでは、個人が地域に対して愛着や親しみを覚える場所に関しても地域資源と捉えることとする。

2. 十日市場駅と駅勢圏域の概要

十日市場駅は、横浜市緑区に位置するJR横浜線の駅である。周辺には、地区センターや図書館、地域ケアプラザ等の公共施設が立地している。戦後、十日市場町に

*1 神奈川大学工学部建築学科、特別助教、博士(学術)

*2 神奈川大学工学部建築学科、教授、博士(工学)

*3 神奈川大学人間科学部人間科学科、教授、博士(工学)

Assistant Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Kanagawa Univ., Ph.D.

Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Kanagawa Univ., Dr. Eng. Prof., Faculty of Human Sciences, Kanagawa Univ., Dr. Eng.

において横浜市は、市営住宅を中心とした大規模団地を開発した。さらに、隣接する霧が丘や若葉台といった地区において大規模団地の開発が進み、十日市場駅を中心とした駅勢圏域が形成されている(図1)。

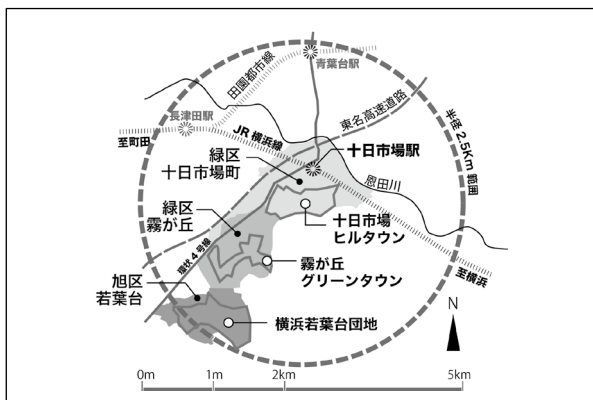


図1 十日市場駅勢圏域

2-1. 十日市場町とヒルタウン

十日市場町の人口は 15,467 人、世帯数は 7,831 世帯となっている³⁾。内、横浜市営住宅(2334 戸)と UR 住宅(549 戸)からなる十日市場ヒルタウンは、昭和 34 年から同 39 年にかけて開発された後、平成 3 年からの全面建て替えを経て現在に至っており、賃貸住宅を中心とした大規模団地である。このヒルタウンにおいては、高齢化率が 40.5%⁴⁾となっており、十日市場町全体の高齢化率 26.6%に比べると局所的に高い状況にある。

2-2. 霧が丘

霧が丘の人口は、11,680 人、世帯数は、5,053 世帯となっている⁵⁾。昭和 56 年から開発が始まり、集合住宅からなる霧が丘グリーンタウンと戸建て住宅が建設された。

当該地区は「あかみち」と呼ばれる歩行者専用道路が各街区と公園や小学校といった施設をつなぐ、クラスター状の配置計画となっている。高齢化率は丁目別に異なるが、集合住宅を有する 4 丁目(36.9%)、5 丁目(32.0%)、6 丁目(35.6%)において高い傾向にある。

2-3. 若葉台

若葉台は、約 6,300 戸の大規模団地を含む一帯であり、人口は 13,596 人、世帯数は 6,715 世帯となっている⁶⁾。高齢化率は、52.5%と他地区に比べ高いものの、要介護認定率が全国平均より低いことで注目されている⁷⁾。昭和 48 年より造成が行われ、同 54 年から入居が始まった団地である。近隣住区理論に基づいた施設配置計画となっており、歩車分離が徹底されている。また、自然地形や植生を配慮した開発がなされたことから、高層棟の集合住宅を中心とした構成となっている。

3. 実践的取組みの実施

3-1. 概要

2016年から2020年にかけて、3地区ごとに下記1)~4)の取組みを実施した。その概要を表1に示す。このうち、住民意識アンケート調査に関しては4章にて述べる。

- 1) たからもの探しワークショップの開催とたからものマップの制作
- 2) 思い出のある場所に関するヒアリング調査と思い出カードの制作
- 3) 愛着のある場所と住民意識に関するアンケート調査
- 4) 市民記者養成講座及び聞き書きプロジェクト及び取組み成果の冊子化

表1 取組みの概要

十日市場町	霧が丘	若葉台
たからもの探しワークショップ	たからもの探しワークショップ	たからもの探しワークショップ
第1回：2016年11月26日 ・十日市場の魅力・キーワードの抽出 ・地図上へのプロット、カテゴリー分け ・キャッチフレーズの検討 第2回：2016年12月10日 ・まち歩きの実施、個人のたからものマップ作成 第3回：2017年1月21日 ・たからものマップ試案の発表と再検討 ・十日市場を表すキャッチフレーズ案の投票	第1回：2017年11月25日 ・まち歩きの実施 ・霧が丘の魅力地図上へプロット ・カテゴリー分け 第2回：2017年1月21日 ・たからものマップの試案の発表と再検討 ・霧が丘を表すキャッチフレーズの検討	第1回：2018年11月19日 ・まち歩きの実施 ・若葉台の魅力地図上へプロット ・カテゴリー分け 第2回：2018年12月1日 ・たからものマップの試案の発表と再検討 ・若葉台を表すキャッチフレーズの検討
思い出のある場所ヒアリング調査	思い出のある場所ヒアリング調査	思い出のある場所ヒアリング調査
実施期間：2017年5月~9月 実施場所：地域住民の自主的なイベント、高齢者交流サロン等 収集件数：37件	実施期間：2018年7月、8月 実施場所：地域ケアプラザ、霧が丘盆踊り大会 収集件数：34件	実施期間：2019年6月~8月 実施場所：子育て支援施設、地域コミュニティカフェ 収集件数：35件
愛着のある場所（住民意識アンケート調査）	愛着のある場所（住民意識アンケート調査）	愛着のある場所（住民意識アンケート調査）
調査対象：20~79歳の横浜市緑区十日市場町住民1,500名 抽出方法：無作為抽出法(住民基本台帳より系統抽出) 実施期間：2017年8月 調査手法：郵送による調査票の配布・回収 有効回答数：390(有効回収率26.1%)	調査対象：20~79歳の横浜市緑区霧が丘住民1,000名 抽出方法：無作為抽出法(住民基本台帳より系統抽出) 実施期間：2018年8月 調査手法：郵送による調査票の配布・回収 有効回答数：354(有効回収率35.4%)	調査対象：20~79歳の横浜市旭区若葉台住民2,000名 抽出方法：無作為抽出法(住民基本台帳より系統抽出) 実施期間：2019年7月 調査手法：郵送による調査票の配布・回収 有効回答数：873(有効回収率43.7%)
発信に関する取組み：市民記者養成講座	発信に関する取組み：聞き書きプロジェクト	発信に関する取組み：市民記者養成講座
説明会：2018年2月16日 講座：2018年3月2日、3月16日 概要：地域の魅力を発信する文章作成の講座 対象：子育て中の方	実施日：2017年10月16日、10月31日、11月20日 発表会：2017年12月16(総合的な学習の時間) 概要：多世代交流と文章作成の講座 対象：聞き手：地域の児童(5年3組)+話し手：地域の方	説明会：2017年2月1日 講座：2017年2月15、3月1日、3月15日 概要：地域の魅力を発信する文章作成の講座 対象：子育て中の方

3-2. たからものマップの制作

地域資源の発掘を目的として、3地区ごとに「たからもの探しワークショップ」を開催した。地域住民を交えまち歩きを行い、特徴的な場所や景観、歴史や生活等について話を伺いながら地域資源となり得る素材を収集した。そして、それらを地図上にプロットし、地域資源をテーマ毎に分類した。得られた地域資源は、建築学科学生が目線で編集した⁽³⁾。そして、たからものマップの試案を制作し、ワークショップにて精査したうえで、地区の特徴を表すキャッチフレーズの検討を行った。最終的に、郷土史家や町内会等での再確認を経て完成している。

たからもの探しワークショップを通じて得られた地域資源とキャッチフレーズは、表2に示した通りである。

十日市場では、田園地帯における農のある風景や並木道、丘陵地における団地の特徴的な風景といった「自然」や、地名の由来を示す歴史的事象や寺社仏閣等に見る「歴史」などの地域資源が得られた。また、特徴的な建物や橋、公共空間、さらには、眺望や景観構造としての「空間」や、公共施設や地域での生活を支える店舗等に見る「生活」といった分類にみる地域資源が得られた。

霧が丘においては、記念碑や市街化調整区域との境に配置された樹木といった、開発の記憶を今に伝える「歴史」のほか、並木道や隣接する市民の森などの自然的要素といった地域資源が得られた。また、当該地区の計画的特徴である歩行者専用道路(通称あかみち)と公園などのネットワークに関する「まちの計画」のほか、大学やコミュニティ支援施設等からなる「人と人の共生」といった当該地区独自の地域資源が抽出されている。

若葉台においては、バリエーション豊かな歩行者専用道路とそれを支える歩車分離という計画システムに関する「まちの計画」や、開発とともに歩んできた「まちの歴史」などの地域資源が得られた。

以上のプロセスを経て「たからものマップ」を制作した。紙面は、A3 サイズ横使いで3つ折りとし、表裏両面フルカラーとした。表面には各地区の地図を配置し、その上にアイコン及び番号で具体的な地域資源をプロットした(図2)。裏面は地域資源の分類ごとに写真とその内容を解説した文章、そして、表面の地図と連動した通し番号が付いた地域資源が一覧になっており、裏表両面が連動する形となっている(図3)。なお、解説文はワークショップの参加者から収集した内容より構成した。

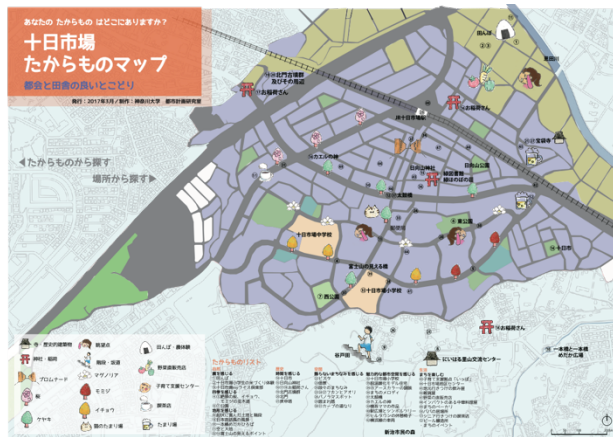


図2 たからものマップ表面(十日市場編)



図3 たからものマップ裏面(十日市場編)

表2 3地区ごとの地域資源

十日市場の地域資源		霧が丘の地域資源		若葉台の地域資源			
キャッチフレーズ：都会と田舎の良いとこどり		キャッチフレーズ：あかみちが繋ぐみんなのまち		キャッチフレーズ：緑が歩みを守るまち			
自然	a. 農を感じる： 田んぼ、十日市場小学校の米作り体験、十日市場myライズ倶楽部	まちの歴史	くわの木、旧鎌倉道、大弁財助徳天社・開発記念石、霧が丘センター、三角点	まちの計画	ふかん、あおり、歩車分離、横浜わかば学園、高低差、豊かな山道、くねくね道、木のカーテン、歩行者と自転車の分離、木のトンネル、季節で変化する道		
	b. 四季を感じる： 絶景の桜・イチョウ・モミジの並木道、公園		自然と人の共生		新治市民の森、桜の並木道、モジバフウ、ケヤキの並木、ハンジ、ナンキンハゼ、鎌倉道のヒノキとスギ、三保市民の森	まちの発見	天使の湖、あひるのおほか、木の顔、側溝の蓋、名前の刻まれたタイル、若葉台の境界線、一目の花壇、ウヰズザクラ、タマノカンアオイ
	c. 地形を感じる： 起伏に富んだ土地と会談、日本語風の風景、一本橋めだかひろば						人と人の共生
d. 時間を感じる： 十日市、お福荷さん、日向山神社、北門古墳群、北角、庚申塔	まちの計画	まちの歴史	まちの暮らし	ふれあい広場、まちづくりセンター、Wakabada! village of sports&culture、子育て支援・多世代交流の施設活動、若葉台プレイパーク、森の中のアスレチック、テニスコート、ジャブジャブ池、自治会活動、日常風景			
e. 魅力的な都市空間を感じる： 十日市場小学校、ミナガーデン、アースカラーの舗装、富士山が見えるポイント、まちのメロディ、昼タウンの休憩椅子、横浜線の車両、カーブの道なり				視点場	まちの計画	歩行者専用道路あかみち、霧が丘公園、高低差と植栽計画、団地の日射計画、歩車分離	まちの暮らし
f. 飾らないまちなみを感じる： 空と大地、ビスタ、借景、段々のまちなみ、フカンとアオリ、パノラマスポット、囲い	まちの計画	まちの暮らし	まちの暮らし				
g. まちを楽しむ： 子育て支援拠点「いっぽ」、十日市場地区センター、地元行きつけの飲み屋、雑貨屋、野菜の直販売店、インパクトのある中華料理屋、まちのペーカリー、パバの居酒屋、シニア行きつけの喫茶店、ビール醸造所、まちのイベント				まちの計画	まちの暮らし	まちの暮らし	まちの暮らし

3-3. 思い出カードの制作

3 地区ごとに、子育て支援施設や高齢者サロン等の会場にて「思い出のある場所」についてヒアリング調査を実施し、場所とそこにまつわる思い出をインタビュー形式で収集した。個人の思い出にまつわるエピソードと、それが刻まれている場所に注目することで、たからものマップにて抽出された地域共通の魅力だけではなく、個人が地域への愛着を育む場としての地域資源の発掘を目指した。

3つの地区に共通した傾向としては、オープンスペースにおける様々な体験が、思い出として多く語られている点にある。代表的な例を表3に示す。

十日市場では、十日市場駅前広場や公園などのオープンスペースにおける思い出や、団地内におけるコミュニティの繋がりを感じられるような機会に関する思い出が語られた。さらには、当該地区に広がる田園風景とそれに関わる思い出が語られた点も特徴といえる。

霧が丘では、歩行者専用道路であり、団地内の主要な動線である「あかみち」や、地区内の様々な公園における思い出が語られ、日常的に繰り返される出来事や風景が想起されている点が特徴といえる。

若葉台では、地区内にある大小様々な公園をはじめとして、まちの中心に位置する「ふれあい広場」やそこに続く親水空間である「じゃぶじゃぶ池」における思い出が語られ、住民同士の交流の機会となった点が特徴といえる。

以上のヒアリング調査を経て、これらを可視化し発信する媒体として「思い出カード」を作成した(図4)。サイズは、ポストカードサイズ縦使いとし、裏表両面フルカラーとしている。表面は、思い出のある場所を表す写真とタイトルで構成し、裏面は思い出の場所におけるエピソードを掲載している。

3-4. 発信に関する取組み

地域資源を発信する取組みとして、十日市場と若葉台にて「市民記者養成講座」を実施した。子育て中の方を対象に、地域魅力を伝える文章を作成することを目的として、全3回にわたって講師による添削指導を行った。受講生は最終的に、地域の魅力に関する文章を書き上げている。

霧が丘では、地区内にある横浜市立の小中一貫校の協力を得て、5年生の授業の一環として「聞き書きプロジェクト」を実施した。ここでは、地域に住む高齢者から昔の話を伺うことで多世代交流を図るとともに、それを

表3 思い出のある場所とエピソードの例

十日市場町における思い出の場所とエピソード
場所：十日市場駅前広場
エピソード：四季の変化を楽しめるまち。駅前のハナミズキの木が三六五日の変化があり、出勤のときに変化を見るのが楽しい。マルシェの時はいつもより活気があった。
霧が丘における思い出の場所とエピソード
場所：萱場公園
エピソード：学校帰りに行く萱場公園。幼稚園の頃から仲のいい友達と外で遊んでいました。学校でバスケットボールのチームに入っていて、休みの日はよく公園で友達と練習しています。
若葉台における思い出の場所とエピソード
場所：じゃぶじゃぶ池
子供が生まれてから思い出になった場所。子供同士で遊ぶだけでなく、ママ友の交流の場となった。

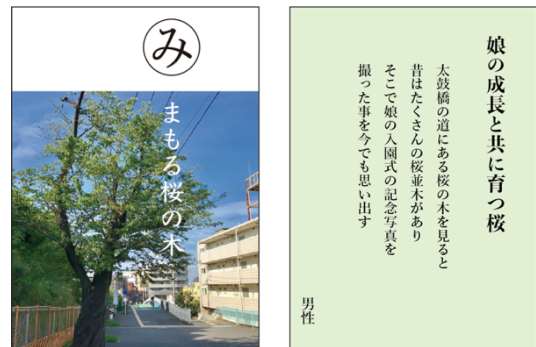


図4 思い出カード両面(十日市場編)

経て児童が好きなテーマを設定し、文章を制作した。なお、これらの文章も講師による添削指導を行った。

以上の活動を経て、十日市場と若葉台では、講座修了生の有志らによって、地域魅力を発信する団体が立ち上がり、情報発信のウェブサイトが運営されている⁽⁴⁾。

さらに筆者らは、たからものマップや思い出カード、文章講座といった一連の実践的取組みについてまとめた冊子を地区ごとに作成した。そして、各地域で行われているイベント等で配布することで、発掘された様々な地域資源を活動成果として地域に還元している⁽⁵⁾。

4. アンケート調査と愛着のある場所に関する考察

4-1. 調査概要

3地区で無作為に抽出した住民を対象に、アンケート調査を実施した。調査では、前述のたからものマップを同封したうえで、「愛着のある場所」として25ヶ所程度の選択肢からの複数選択および自由記述で回答を得た。調査は、神奈川大学人間科学部専攻科目「社会調査法(含む実習)AI・II」にて、調査項目の検討、対象者の抽出等を行ったため、各地区で調査項目や対象者数は異なる。ただし、表4に示す質問項目は共通であり、本稿ではこのうち「定住意向」を取り上げ、分析を行った。なお、各地区の回答者の居住年数等の特性は表5に示す通りで、地区により大きく異なっている。

表 4 住民意識調査アンケート項目

住民意識調査 アンケート項目
共通質問事項
○回答者属性(性別・年齢・職業・子ども・世帯構成・住居形態)
○「愛着のある場所」について
・問1. 居住年数
・問2. 転出元・転入契機・転入先選択理由について(十日市場・霧が丘のみ)
・問3. 定住意向・転居理由について(若葉台では問2として設問)

表 5 回答者の住居形態と居住年数

	(%)				
十日市場 (n=390)					
住居形態	持家(戸建)	持家(集合)	賃貸(集合)	その他	無回答
居住年数	21.3	25.1	48.5	2.9	2.3
	20年以上	10~19年	5~9年	5年未満	無回答
	32.6	31.8	14.1	21.5	0.0
霧が丘 (n=354)					
住居形態	持家(戸建)	持家(集合)	賃貸(集合)	その他	無回答
居住年数	38.7	37.6	22.6	1.1	0.0
	20年以上	10~19年	5~9年	5年未満	無回答
	59.6	21.2	9.3	9.9	0.0
若葉台 (n=873)					
住居形態	持家(戸建)	持家(集合)	賃貸(集合)	その他	無回答
居住年数	0.0	87.6	9.5	2.4	0.5
	20年以上	10~19年	5~9年	5年未満	無回答
	74.7	12.9	6.2	5.8	0.3

4-2. 愛着のある場所

愛着のある場所の回答をもとに3地区の比較を行った。まず、調査票で示した選択肢を、街路や公園、史跡などのオープンスペース型の場所(以下、オープン型)と、地域施設、学校・幼稚園・保育園などの公共施設(以下、施設型)の2つに分けた。これらの選択肢数は、表6上部に示す通りである⁶⁾。ここでは傾向を把握するため、回答数が上位の選択肢を、「回答者の50%以上が選択した場所」、「20%以上50%未満が回答した場所」、「10%以上20%未満が回答した場所」の3つに分け、それぞれオープン型と施設型の2つのタイプ別で整理した(表6)。

表 6 3地区における愛着のある場所の回答傾向と比較

分類 選択肢数	十日市場		霧が丘		若葉台	
	オープン	施設	オープン	施設	オープン	施設
回答率	桜並木	公園	桜並木	桜並木	桜並木	桜並木
50%以上						
回答率	田んぼ・田園風景	十日市場	あかみち	自転車と分離された歩道	地区センター	
20%以上	公園	緑図書館	新治市民の森	イチョウ並木		
50%未満	新治市民の森	地区センター	三保市民の森	公園		
				グラウンド		
回答率	プロムナード(駅から太鼓橋までの通り)	十日市場小学校	富士山の見えるポイント	霧が丘学園	帷子川水源、小川	若葉台小学校
10%以上	十日市場駅前広場	十日市場中学校		アムニティ		
20%未満	イチョウ並木			霧が丘商店会	じゃぶ池	若葉台中学校
				あすか幼稚園	杉並木	若葉台スポーツ文化クラブ

この結果、いずれの地区でも50%以上の回答を得た場所には「桜並木」が挙げられている。また、20%以上50%未満の回答を得た場所にはオープン型が多く挙げられた一方で、十日市場では施設型も複数挙げられている。

これに対して、回答者の10%以上20%未満が回答した場所は地区によって違いがみられた。十日市場はオープン型が多く、施設型は小学校と中学校の2ヶ所のみで

あった。一方で、霧が丘ではオープン型は1ヶ所のみで、施設型が4ヶ所挙げられた。さらに、若葉台はオープン型と施設型のそれぞれが4ヶ所ずつ挙げられた。

このように、いずれの地区も、街路や公園などのオープン型の場所が愛着のある場所として広く住民に選ばれているが、霧が丘ではそうしたオープン型の場所が限定であった。十日市場や若葉台ではオープン型の場所が多様に存在する一方で、面積の小さい霧が丘ではそうした場所が限られているためと考えられる。また、十日市場では、施設型とオープン型が同じように愛着のある場所として選ばれていた。これは、十日市場駅とこれに近接して公共施設が立地するという、十日市場地区の特性を反映しているといえる。

4-3. 住民意識と地域への愛着

愛着のある場所を持つことは、自らが住まうまちへの愛着を高め、住み続けたいという意識を高める一因になると考えられる。そこで、愛着のある場所の数と定住意向との関係について分析を行った。まず、愛着のある場所の回答数を「無回答(0ヶ所)」、「1ヶ所のみ」、「2~3ヶ所」、「4~5ヶ所」、「6ヶ所以上」の5つに分類し、地区別に集計した。

この結果、各地区とも「2~3ヶ所」の回答者が約3分の1を占め、次いで「4~5ヶ所」や「6ヶ所以上」がそれぞれ回答者の2割前後を占めた。一方、各地区における定住意向の回答を「あり」と「なし」に分類したが、いずれの地区でも「あり」が8割を超えていた(表7)。

表 7 愛着のある場所の回答数と定住意向の単純集計

	十日市場		霧が丘		若葉台	
無回答	36	9.2%	18	5.1%	51	5.8%
1ヶ所のみ	66	16.9%	58	16.4%	135	15.5%
2~3ヶ所	127	32.6%	113	31.9%	276	31.6%
4~5ヶ所	87	22.3%	90	25.4%	209	23.9%
6ヶ所以上	74	19.0%	75	21.2%	202	23.1%
合計	390	100.0%	354	100.0%	873	100.0%
これからも住みたい(あり)	316	81.4%	303	86.6%	779	90.8%
続けたくない(なし)	72	18.6%	47	13.4%	79	9.2%
(定住意向) 合計	388	100.0%	350	100.0%	858	100.0%

*十日市場と霧が丘は「はい」「いいえ」の2区分、若葉台は「はい」「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」の合計、「いいえ」「どちらかといえば住み続けたくない」「住み続けたくない」の合計にカテゴリ化

これらをもとに、愛着のある場所の回答数と定住意向について、地区別にクロス集計を行った(表8)。カイ2乗検定を行ったところ、いずれの地区においても統計的に有意な関連が確認された。また、関連の強さを示すクラメールのVは、十日市場で最も強い関連がみられた(表9)。さらに、残差分析の結果では、各地区とも定住意向が「あり」の群は、回答数で「無回答」が少なく、十日市場や若葉台では「あり」の群は、回答数で「1ヶ所」も少なく、回答数で「6ヶ所以上」が多いという有意な偏りがみられた(表8)。

表8 愛着のある場所の回答数と定住意向のクロス表

		定住意向	無回答	1ヶ所のみ	2~3ヶ所	4~5ヶ所	6ヶ所以上
十日市場 (n=388)	あり	n	24	42	105	76	69
		%	7.59	13.29	33.23	24.05	21.84
		a	-2.39	-4.08	0.66	1.87	2.90
	なし	n	12	24	21	10	5
		%	16.67	33.33	29.17	13.89	6.94
	a	2.39	4.08	-0.66	-1.87	-2.90	
全体		n	36	66	126	86	74
霧ヶ丘 (n=350)	あり	n	12	46	98	79	68
		%	3.96	15.18	32.34	26.07	22.44
		a	-2.54	-1.42	0.35	0.39	1.85
	なし	n	6	11	14	11	5
		%	12.77	23.40	29.79	23.40	10.64
	a	2.54	1.42	-0.35	-0.39	-1.85	
全体		n	18	57	112	90	73
若葉台 (n=858)	あり	n	38	112	247	192	190
		%	4.88	14.38	31.71	24.65	24.39
		a	-3.73	-2.86	0.24	1.63	2.61
	なし	n	12	21	24	13	9
		%	15.19	26.58	30.38	16.46	11.39
	a	3.73	2.86	-0.24	-1.63	-2.61	
全体		n	50	133	271	205	199

※a: 調整済み残差; ±1.96以上(p<0.05)のセルが有意な関連をもたらしていることを示す

表9 クロス表分析の結果

定住意向	十日市場		霧ヶ丘		若葉台	
	カイ2乗値	V	カイ2乗値	V	カイ2乗値	V
	28.90 **	0.27	10.74 *	0.18	27.26 **	0.18

**p<0.01, *p<0.05 V:クラメルV

以上の分析から、愛着のある場所が多くあると定住意向も強く、愛着のある場所が少ないと定住意向も弱いという関連がみられ、愛着のある場所が複数あることが定住意向を高める一因になっていると考えられる。

5. まとめ

横浜市の十日市場駅勢圏域において実施した当該取組みでは、たからものマップの制作を通じて、地域資源を発掘し可視化することができた。また、個人が地域と結びつく瞬間としての思い出に着目し、その場所とエピソードを把握した。さらには、発信に関する取組みを経て、地域魅力を発信するグループが形成され、地域に活動が引き継がれた。このほか、地元の小学校の総合的な学習の時間において本取組みが取り上げられるに至っている。

このように、地域資源を広く捉え発掘発信する取組みは、潜在的な地域魅力に気づきをもたらすとともに、新たな人的繋がりを創出するなど、地域住民自らが能動的に地域を知る活動に繋がっていることから、地域への愛着を育む手法として有用であったと考えられる。

また、アンケート調査の結果から、愛着のある場所が複数存在すると定住意識が強い傾向が確認できた。このことから、地域資源を発掘発信する取組みを通じて、地域への愛着が育まれることで、定住意識が高まり、人口減少が進む郊外住宅地において、持続可能性の獲得につながる可能性があるといえる。

一方で、本取組みは共時的であり、愛着の醸成と定住意識の高まりに関しては継続的な検証を要する。また、地域資源と各地区の空間的特徴との関係に関する考察は今後の研究課題としたい。

[注釈]

- (1) 協定では、1. 地域への愛着を育む取組に関する事項、2. 交流・活動・居場所づくりに関する事項、3. 地域の魅力の発信に関する事項について連携することとなっている。なお、筆者らは横浜市(建築局市住宅部住宅再生課)との協定締結前の2016年より協働して活動しており、以下4編にてこれまでの取組みを報告している。
[1]佐藤凜子, 山家京子, 鄭一止: 横浜市・郊外住宅地における地域資源の抽出及び発信の取組-その1. 「十日市場たからものマップ」の作成, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.951-952, 2017
[2]佐藤凜子, 山家京子, 上野正也: 横浜市・郊外住宅地における地域資源の抽出及び発信の取組-その2. 愛着と思い出のある場所, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1079-1080, 2018
[3]永盛菜, 山家京子, 上野正也: 横浜市・郊外住宅地における地域資源の抽出及び発信の取組-その3. 愛着と思い出のある場所(霧ヶ丘), 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.361-362, 2019
[4]佐藤季也, 鈴木杏奈, 永盛菜, 山家京子, 上野正也: 横浜市・郊外住宅地における地域資源の抽出及び発信の取組-その4. 愛着と思い出のある場所(若葉台), 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.489-490, 2020
- (2) 横浜若葉台団地を管理する神奈川県住宅供給公社によると、平成29年時点で要介護認定率11.6%であり、全国や旭区全体に比べ約2/3程度であったとされている。
- (3) 3地区で最初に実施した十日市場のワークショップにて設定したテーマ、「自然・歴史・空間・生活」には客観性があり、これを踏襲した。ただし、参加住民の意見と参加意識の醸成、ワークショップでのライブ感を大事に考え、テーマや編集については、学生と参加住民により結果的にアレンジしたものとなった。
- (4) 十日市場では地域情報ウェブマガジン「テンイーズネット (ten e's net)」が立ち上がり、8名の子育てママライターが活動している。現在は、一般社団法人グリーンボタン倶楽部(エリアマネジメント組織)のウェブサイトにて情報を発信している。一方、若葉台では子育て家族を応援するウェブマガジンとして「若葉だい家族」が立ち上がり14名の子育てママライターが情報発信に取り組んでいる。
- (5) 例えば、十日市場町の20、21街区の開発に伴って開催されたまち開きイベントにて、報告書とたからものマップの配布、及び、思い出カードを展示した。また、当日は、配布や展示のみならず、当該取組みについて来場者に口頭で説明を行った。
- (6) 公園について、若葉台では1つの選択肢だが、十日市場と霧ヶ丘では3ヶ所の公園名を選択肢で質問しているため、これらの地区ではいずれかの公園名を回答した回答者全てを「公園」の回答者とした。

[参考文献]

- 1) 崔熙元, 大原一興, 藤岡泰寛: 地域資源としての高齢者居住施設に対する意識構造と立地環境との関連性に関する研究(その1) 施設に対する意識と地域愛着の関係に着目して, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 80, No. 711, pp1037-1045, 2015
- 2) 鈴木春菜, 藤井聡: 「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究, 土木学会論文集D, Vol164, No. 2, pp. 179-189, 2008
- 3) 横浜市統計情報ポータル: 町丁別の人口及び町丁別の年齢別人口, 令和3年3月時点資料
- 4) 横浜市: 横浜市緑区十日市場周辺地域における持続可能な住宅地推進プロジェクト 22 街区事業者公募要項 データ集「事業対象地周辺の概要」, 2019
- 5) 6) 3)と同じ